

【第 3 便のご報告と御礼】

文責・在英国国際ジャーナリスト、木村正人

ウクライナ向け第 3 便 215 台の車いすが 7 月 25 日、ルハンスク州リシチャンシク市当局(同州は現在ロシア軍の占領下にあるため、ハルキウ州やドネツク州に避難中)の責任者に引き渡されました。親露派武装勢力がルハンスク州の民家を襲ったのは 2014 年のことでした。このため膨大な数の住民が故郷を追われ、国内避難民となることを強いられました。

この中には車いす利用者もたくさんいます。そのためリシチャンシク市当局から要請を受けた際、ウクライナ向け第 3 便の車いすをすべて提供することが即座に決まりました。キーウの FFU 人道支援倉庫で 215 台の車いすがリシチャンシク市の副責任者オクサナ・ヴォロシナ氏に引き渡されました。

これもひとえに、希望の車いす、海外に子ども用車椅子を送る会、「飛んでけ! 車いす」の会に加え、ポーランドからウクライナまでの陸上輸送を支援してくれているウクライナの実業家ヴァディム・ストーラー氏のおかげです。これで非人道的な戦争で移動の自由を奪われた多くの人々に一筋の光明を与えることができます。

日本郵船、郵船ロジスティクス、株式会社三協をはじめ、日本の皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

以 上

【リシチャンスク市の副責任者オクサナ・ヴォロシナ氏】

「まず、このような取り組みをして下さった財団 (FFU) と関係者の皆さまに感謝申し上げたいと存じます。ルハンシク州から約 32 万人が避難を強いられました。その中には、自力で移動できない障害を持つ子どもたち、大人、高齢者も含まれています。車いすでの移動は彼らの生活にとって必要不可欠です。しかし、多くの人にとって車いすは高額すぎて購入することができないのが現実です」



【FFU医療部門責任者カリーナ・カピタニユク氏】

「一年前、私たちのチームは国内避難民の間で車いすがとても必要とされていることを知りました。戦争から逃れてきた高齢者や障害を持つ子どものいる家族は移動できないことがよくありました。動く手段を失い、ベッドの上に閉じ込められたままとなり、家族は彼らを外に散歩に連れて行くことさえできません。このことは大変、大きな苦痛になります。

国内避難民のほとんどは家も財産もすべてを失っているのです、車いすを買う余裕がありません。そこで日本の中古車いすを整備してウクライナに届けるアイデアが生まれました。その目的は戦争から逃れて自由に移動する機会を失った人々を支援することでした。彼らとその家族に、太陽の光を浴び、外の空気を吸う移動の自由をどうか与えてください。」



【FFU 人道部門責任者オルガ・グリユザ氏】

「このプロジェクトはけがを負い、自力で移動できない人々をケアする機会を提供する非常に重要な取り組みです。

私たちが届ける日本の車いすが生活の質を向上させているのを見てうれしく思います。車いすはこうした人々にアパートに引っ越したり、以前はできなかった散歩に出掛けたりする機会を与えています。

日本のパートナーとの協力の枠組みの中で、合計で約 1000 台の車いすを受け取り、必要な人々に届けます。第 1、2 便の車いすはキーウ近郊のイバンキフ村、テルノポリ州などの病院や施設に送られました。テルノポリ州は東部や南部からの多くの住民が避難してきています。」



リシチャンスク市

